

東日本大震災がスポーツ観戦者に与えた影響 Influence of the Great East Japan Earthquake on spectator

1K09B086-7

指導教員 主査 木村和彦 先生

西城 裕亮

副査 中村好男 先生

【目的】

2011 年（平成 23 年）3 月 11 日、東北地方三陸沖で発生したマグニチュード 9.0 の東北地方太平洋沖地震は日本観測史上最大のものであり、地震に伴って発生した津波や原子力発電所事故は東北地方を中心に全国各地に大きな被害をもたらした。そうした中でスポーツ界においても大きな被害がもたらされて多くのスポーツで公式戦の延期や休止・中止といった状況に追い込まれた。

現在まで、東日本大震災に対してスポーツ界が受けた影響について研究や調査が行われているが、震災が発生してから期間があまり経っていないこともあり、調査の数がまだ少なく、十分明らかにされているとは言い難い。さらにはスポーツ観戦に関する研究はなされていない。そこで本研究は、東日本大震災が発生する前と後でスポーツ観戦者数がどのように変化していったかを調査し、スポーツ観戦者に聞き取り調査を行うことで、東日本大震災がスポーツ観戦者にどのような影響を及ぼしたかを明らかにすることを目的とする。

【方法】

上記の研究目的を達成するために、記事調査及び各競技団体のホームページを基に観戦者数の情報収集を行った。本研究では情報が得られた、男女ゴルフ、競馬、プロサッカー(J1・J2)、プロ野球について行う。観客数のデータは競技毎に年数が異なるものの東日本大震災発生した 2011 年を基準とし、2010 年以前の 4 年間の平均を震災前、2011 年を震災直後、2012 年を震災後として、各期間の観客数を算出し、それぞれを比較した。

スポーツ観戦者への質問紙調査はインターネット調査会社に依頼し、上記の種目の中で過去 5 年間に複数回観戦経験のある人対象とし、500 人に調査を行った。その中で、震災前後での 3 期間の観戦回数の変化とその理由について質問をした

【結果・考察】

・観戦者数の変化

6 種目の東日本大震災発生前後でのスポーツ観戦者数の変化についてまとめみると、男子ゴルフを除く、どのスポーツにおいても震災前と震災直後を比

べて、観戦者数は減っている。震災直後と震災後においてのスポーツ観戦者の変化については、震災直後よりも観戦者数が増えているスポーツは少ない。そして、震災後のスポーツ観戦者数が震災前と同水準まで回復しているスポーツは 1 つもない。震災直後から震災後にかけて観戦者数が増えた 2 種目に関しても震災前の観戦者数の水準と比べると低いことから本研究で調査を行ったいずれの種目も東日本大震災前のスポーツ観戦者数の水準まで戻っておらず、東日本大震災におけるスポーツ観戦者への影響はスポーツ観戦者数という側面から見ると非常に大きかったと言える。

・観戦者数への調査

震災前と震災直後でのスポーツ観戦者頻度の変化については約 65%の人が観戦頻度は「変わらない」と答えた。「増えた」と答えた人は約 7%と少なく、「減った」と答えた人が約 30%となっていた。地域別に見ても被災地である東北地方から遠い地域でも「減った」と答えた人の方が「増えた」人よりも多いことから場所に関係なく、観戦頻度は減っていると言える。観戦頻度が減った理由別では「行く気分にならなかった・自粛ムードがあった」と答えた人で半数以上占めた。東日本大震災によって多くの試合が中止や延期になったにも関わらず、「試合が中止や延期」と答えた人は約 5%と僅かであった。この結果から東日本大震災の発生が観戦者に対して、心理的に観戦を阻害する要因となっていたと考えられる。震災直後と震災後におけるスポーツ観戦者頻度の変化については観戦頻度が「増えた」と答えた人が大きく増え、「減った」と答えた人はその分減ったが、僅かに「減った」と答えた人が「増えた」と答えた人を上回った。地域別では関東地方や近畿地方、九州地方と被災地から遠いいくつかの地域で観戦頻度が「増えた」と答えた人が「減った」人を上回ったことから少しずつ、被災地から遠い地域において、観戦頻度が増えてきているという結果が得られた。

今回、東日本大震災発生前後の観戦者に与えた影響を調査・研究したが、震災発生から約 2 年間しか経過していないため、今後も引き続き調査が必要である。